

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

評価責任者	所属	経済局 商工部 産業振興課
	氏名	課長 石川 賢一

政策	1 静岡のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します
----	-------------------------------

施策	1 模型の世界首都・静岡を活かした魅力づくり
----	------------------------

施策の目的	本市の主要な地場産業であるプラモデル業界の集積を活かし「ホビーのまち静岡」として国内外へ情報発信することで市のブランド化及び地域経済の活性化を図ります。 また、プラスチックモデル製品等の展示会等を開催する事業を促進することにより、地域経済の活性化と市のブランド化を図ります。
-------	--

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	理由
	A：施策の目的が達成されている。				「静岡ホビショー」は、国内最大級のホビーイベントとして、毎年国内外から多くの人々が来場するとともに、小中高校生招待日を設け、学校単位での参加を促すことで小中高校生の来場数が増加。「クリスマスフェスタ」についても、老若男女が楽しめる体験型イベントとして定着し、例年と同程度の来場者が訪れた。「静岡ホビースクエア来場者数」は令和2年3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、休館措置をとっており、来場者数が昨年度と比較して減少したものの、体験型イベントを通じて多くの人にホビーの楽しさをPRでき、全体の入込客数は目標値を上回った。よって総合評価はAとした。
		—			新型コロナウイルスの影響により、指標の対象としている静岡ホビショー、クリスマスフェスタの開催を見送ったため評価を行うことが出来ない。
			—		新型コロナウイルスの影響により、指標の対象としている静岡ホビショーの小中高校生招待日、一般公開日の開催を見送ったため評価を行うことが出来ない。
				—	新型コロナウイルスの影響により、指標の対象としている静岡ホビショーは来場者の入場制限をかけ、更にはツインメッセの南館改修によりクリスマスフェスタは片館開催を余儀なくされたため評価を行うことが出来ない。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率(%)	評価	目標値の算出根拠
			1	160,000人	160,000人	163,757	102.1%	
成果指標	関連施設・イベント入込客数（静岡ホビショー・クリスマスフェスタ・静岡ホビースクエア）	160,000人	2	160,300人	22,704	14.2%	d	平成27～29年度の平均値を令和元年度の目標値とし、静岡ホビショー及び静岡ホビースクエアの来場者数については現状維持、冬のホビーイベントとして定着しつつあるクリスマスフェスタの来場者数が3年間で1,000人増加することを目標として設定した。
			3	160,600人	59,659	37.1%	d	
			4	161,000人	104,936	65.2%	d	
			1					
成果指標			2					
			3					
			4					
			1					
成果指標			2					
			3					
			4					
			1					
指標成果以外の			2					
			3					
			4					
			1					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
「ホビーのまち静岡」の推進	①静岡ホビースクエアの施設管理 ②クリスマスフェスタ開催助成等	1	1	82,202	0	78,638	0.4	0.0	0.0	○
			2	73,548	0	49,123	0.4	0.0	0.0	
			3	88,563	0	81,574	0.4	0.0	0.0	
			4	82,345	0	79,823	0.4	0.0	0.0	
ホビショー開催補助事業	①「静岡ホビショー」開催助成	1	1	11,000	0	11,000	0.3	0.0	0.0	○
			2	5,000	0	5,000	0.3	0.0	0.0	
			3	11,000	0	10,000	0.3	0.0	0.0	
			4	11,000	0	11,000	0.3	0.0	0.0	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後の取組や方向性

引き続き、ホビー推進協議会静岡と連携し、内容、時期及び対象を見極め、効果的なシティプロモーション推進に取り組んでいく。
 また、静岡ホビースクエアが入居するサウスポット静岡は築26年が経過し、故障による修繕件数が増えている。ビル管理会社とも相談の上、計画的な修繕計画を実施する。
 ホビショーについては入場制限をかけたものの現在の会場及び駐車場のキャパシティではこれ以上の来場者の受入れは困難な状況である。しかしながら、数少ない全国から集客できるイベントであることから、主催者とともに南部体育館の効率的利用や新たな駐車場用地の確保について検討していく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

評価 責任 者	所属	観光・MICE推進課
	氏名	課長 福地 剛

政策	1 静岡のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します
----	-------------------------------

施策	2 世界に認められた地域資源のみがきあげ
----	----------------------

施策の 目的	世界文化遺産富士山の構成資産として登録された三保松原をはじめ、日本夜景遺産に登録され、富士山の眺望の素晴らしい日本平など世界に認められた地域資源を活かし、ハード整備及びソフトの両面の視点で、世界中から人が集まるよう、事業を進めます。
-----------	--

(1) 総合評価

総合 評価	令和元 年度	S：施策の目的が十分に達成されている。	理由	各施策を計画的に実施し、平成30年度にオープンした「みほしるべ」や「日本平夢テラス」等の施設による誘客効果を令和元年度も継続して取り扱ったことで、目標値を大きく上回る成果を得られたため。
	令和2 年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	新型コロナウイルス感染症の影響（緊急事態宣言の発出等）により国内外の移動が大きく制限され、当初想定していた事業実施ができず、設定している目標値を達成することができなかったが、感染対策等を踏まえた新たな形式での事業を試し、情報発信やプロモーションを工夫して、認知度向上においては一定の効果が得られたと考えられるため、総合評価を「B」とした。
	令和3 年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の移動が大きく制限され、当初想定していた事業実施ができず、設定している目標値を達成することができなかったが、感染対策等を踏まえた新たな形式での事業を試し、情報発信やプロモーションを工夫して、認知度向上においては一定の効果が得られたと考えられるため、総合評価を「B」とした。
	令和4 年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	新型コロナウイルス感染症の影響は過年度よりは少なくなったものの、コロナ禍以前までの水準には至っていない。しかし、計画的なハード整備の実施や、状況にあわせたソフト事業の適切な実施により、関連施設・イベント入込客数（三保松原、日本平、南アルプス等）について回復傾向が見られるため、総合評価を「B」とした。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。 A：施策の目的が達成されている。 B：施策の目的があまり達成されていない。 C：施策の目的が達成されていない。 -：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果 指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
	成果 指標	関連施設・イベント入込客数 （三保松原、日本平、南アルプス等）	3,896千人 (H27～29の平均)	1	3,935千人	4,297千人	109.2%	s
2				3,974千人	2,763千人	69.5%	d	
3				4,013千人	2,745千人	68.4%	d	
4				4,052千人	3,744千人	92.4%	b	
指標 成果 外の	・「南アルプスユネスコエコパークの認知度」の目標値51%（市政アンケートモニター）に対し、参考実績値（イベント等来場者アンケート）60% ・ナイトツーリズム推進事業について、コロナ禍の影響を受け、当初予定していた民間イベント（日本平夜市）との連携方法を見直し、感染対策等を踏まえた新たな形式での事業（ドライブインシアター）を試行し、車を利用して多くの来場者（170台）と高い満足度（95%）を獲得した。							

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
①日本平ナイトツーリズム推進事業	日本平からの夜景を核としたナイトツーリズム事業を推進 ・夜間景観整備計画の策定 ・静岡夜景のプランディング ・日本平の集客力向上	1	1	8,400	0	5,812	0.3	0.0	0.0	○
			2	15,000	0	10,163	0.6	0.0	0.0	
			3	23,300	—	21,825	1.0	0.0	0.0	
			4	20,600	0	19,622	1.0	0.0	0.0	
②有度山フレンドシップ協定の推進	「日本平久能山スマートI.C.」共用開始に合わせ、有度山地区にある5施設の協定参加者とともに、近接する宮川交差点にある野立看板に案内広告を掲出	3	1	201	0	98	0.1	0.0	0.0	○
			2	220	0	132	0.1	0.0	0.0	
			3	220	0	132	0.1	0.0	0.0	
			4	220	0	60	0.1	0.0	0.0	
③三保松原保全再生事業	・松原保全研修の開催 ・リスク軽減事業（マツを病気から守る事業、倒木を防ぐ事業等） ・松原再生事業（松原の景観改善事業、健全な松林維持事業） ・圃場での三保由来のマツ苗の育苗	1	1	245,559	—	230,943	3.0	0.5	0.0	○
			2	198,124	0	163,475	2.5	0.5	0.0	
			3	203,769	0	193,218	2.5	1.0	0.0	
			4	110,287	0	102,349	2.5	1.0	0.0	
④南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画推進事業	・ウェブサイトによる南アルプス情報発信事業 ・普及啓発事業 ・協議会関係事業	1	1	6,327	—	6,104	2.0	—	—	○
			2	4,969	0	3,589	2.0	0.0	0.0	
			3	7,973	0	6,921	2.0	0.0	0.0	
			4	6,517	0	5,613	2.0	0.0	0.0	
⑤南アルプス周辺登山道整備事業	登山者の安全を確保する登山道、山小屋の修繕、工事等を実施 ・登山道修繕・工事（茶臼岳、聖岳、千枚岳 他） ・山小屋修繕（百間洞山の家、熊野平小屋、高山裏避難小屋、ウソッコ沢小屋）	2	1	7,000	0	4,478	0.3	0.0	0.0	△
			2	155,000	0	36,422	2.0	0.0	0.0	
			3	5,000	109,100	110,112	2.0	0.0	0.0	
			4	12,000	0	3,355	2.0	0.0	0.0	
⑥日本平公園整備事業	平原ゾーン、アクセス道路及び水道施設整備 ・平原ゾーンの用地取得及び園路整備工事の実施 ・アクセス道路整備工事の実施 ・配水池、ポンプ場、送水管、配水管整備工事の実施	1	1	124,230	15,115	139,345	4.0	0.0	0.0	○
			2	161,906	277,886	439,792	4.0	0.0	0.0	
			3	255,588	233,310	488,898	4.0	0.0	0.0	
			4	312,204	112,805	302,998	4.0	0.0	0.0	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

①引き続き日本夜景遺産としてのプランディングに取り組むとともに、夜間の日本平集客のために、アクセス改善やツアー商品化等を検討していく。
 ②有度山フレンドシップ協定の推進にあたり、令和5年度以降も協定参加者間において、イベント告知等を連携し相互誘客の強化を図る。
 ③国指定名勝、世界文化遺産の構成資産である三保松原を未来に伝え残していくためには、松原の保存（保全と再生）と活用を両輪で進めていくことが必要であると考えている。このため、第4次総合計画では、保存（保全と再生）と活用の両方の要素の取組を強化し、今後も三保松原の魅力や価値を未来に伝え残すため取り組んでいく。
 ④令和6年度は、10周年記念イベントを起爆剤として、南アルプスユネスコエコパークの価値を広く市民に周知し、南アルプスのファンを獲得する。また、南アルプスの保全と利活用の好循環を生み出す仕組みを構築する。
 ⑤台風15号により、登山道へアクセスするための林道が被災したため、夏以降の修繕業務を中止した。令和5年度以降の復旧を見込みつつ、整備箇所修繕等対応していく。
 ⑥本事業は期待どおりの成果をあげることができたが、現在の進捗率は40%強である。このため、第4次総合計画に「日本平公園整備事業」を位置づけ、「風景美術館＝日本平」をコンセプトに名勝日本平に相応しい「富士の眺望日本一の公園」を目指し、引き続き整備に取り組んでいく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

評価責任者	所属	観光・MICE推進課
	氏名	課長 福地 剛

政策	1 静岡のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します
----	-------------------------------

施策	3 徳川家康公をはじめとした歴史に触れ親しむ観光振興
----	----------------------------

施策の目的	静岡浅間神社との回遊性の向上を図りつつ駿府城公園の整備を進めるほか、東海道歴史街道まち歩き観光としておんぱくの実施による観光資源の掘り起しなど、静岡に存在する歴史的資産を活かした風格のあるまちづくりを推進します。
-------	--

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	理由
	S：施策の目的が十分に達成されている。				各施策を計画的に実施し、目標値を大きく上回る成果を得られたため。
		—			新型コロナウイルス感染症の影響（緊急事態宣言の発出等）により国内外の移動が大きく制限され、当初想定していた事業が実施できなかった。また、設定している指標「関連施設・イベント入込客数（歴史文化のまちづくり、久能山、東海道歴史街道）」についても、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント中止等の影響を受けて著しく減少しているため、適正な実績値として評価することができない。
			—		新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の移動が大きく制限され、当初想定していた事業が実施できなかった。また、設定している指標「関連施設・イベント入込客数（歴史文化のまちづくり、久能山、東海道歴史街道）」についても、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント中止等の影響を受けて著しく減少しているため、適正な実績値として評価することができない。
				B：施策の目的があまり達成されていない。	新型コロナウイルス感染症の影響は過年度よりは少なくなったものの、コロナ禍以前までの水準には至っていない。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた事業を再開するなど、状況にあわせて適切に事業を実施し、関連施設・イベント入込客数（「歴史文化のまちづくり、久能山、東海道歴史街道」）についても、回復傾向が見られるため、総合評価を「B」とした。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
			1	2,055千人	2,236千人	108.8%	s	
2	2,105千人	468千人	22.2%	d				
3	2,155千人	693千人	32.2%	d				
4	2,206千人	1,788千人	81.1%	c				
指標以外の成果	「駿府城公園及びその周辺における桜の総本数」令和3年度目標値868本に対し、実績873本（4枯損木、9本植樹）		1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
①東海道歴史街道まち歩き観光の推進	東海道歴史街道で育まれ根付いてきた地域資源を活用した「駿河東海道おんぱく」の開催など観光商品の造成等を通じて、市内二峠六宿への誘客を目指すとともに、東海道ブランドを確立し「街道観光」を推進する。	2	1	19,893	0	18,794	2.0	0.2	0.0	○
			2	39,609	0	14,573	2.0	0.0	0.0	
			3	24,297	0	23,774	2.0	0.0	0.0	
			4	17,851	—	17,496	2.0	0.0	0.0	
②朝鮮通信使発信・交流事業	①釜山市開催フェスティバルとの交流 ②釜山市でのプロモーション活動	2	1	9,074	0	7,824	0.5	0.5	0.0	○
			2	4,450	0	0	0.5	0.5	0.0	
			3	3,508	0	0	0.5	0.0	0.0	
			4	11,105	0	6,275	0.5	0.0	0.0	
③駿府城跡天守台発掘調査見える化事業	①常設見学ゾーン・発掘情報館「きゃっしる」での速報展示 ②現場見学会、講演会実施	1	1	19,384	0	15,256	3.0	2.0	0.0	○
			2	11,244	—	8,449	3.0	2.0		
			3	11,061	—	8,891	1.5	2.0		
			4	15,125	0	10,232	1.5	2.0		
④歴史文化推進事業	①徳川みらい学会と連携した講演会等の実施 ②民間団体や関連自治体と連携した情報発信	2	1	2,768	0	2,479	1.0	0.5	0.0	○
			2	2,428	—	2,120	1.5	1.0		
			3	2,428	—	2,385	1.0	0.0		
			4	2,851	0	2,821	1.0	0.0		
⑤歴史文化施設建設事業	①歴史文化施設の建設・展示設計及び工事 ②歴史文化施設の展示資料収集・調査 ③建設予定地の発掘調査・資料整理（～R2年度）	1	1	483,700	148,660	325,582	7.5	1.5	0.0	○
			2	574,483	279,900	363,623	7.5	1.5		
			3	4,318,837	446,200	1,799,104	8.3	1.2		
			4	439,897	2,928,531	3,128,236	—	—	—	
⑥今川義元公生誕五百年祭推進事業	①今川義元公生誕五百年祭推進事業実施（～R2年度）	1	1	66,000	0	66,000	0.5	0.0	0.0	—
			2	8,545	—	7,535	0.5	0.0		
			3	—	—	—	—	—	—	
			4	—	—	—	—	—	—	
⑦駿府城公園再整備事業	①駿府城公園修景植栽基本設計業務の実施	3	1	100,000	0	82,453	3.0	0.0	0.0	○
			2	4,959	0	4,728	3.0	0.0	0.0	
			3	12,744	—	10,963	3.0	0.0	0.0	
			4	9,000	0	8,910	1.0	0.0	0.0	
⑧お堀の水辺（葵舟）活用事業	①船舶2艘取得（H31年度） ②民間による本格運航開始（R2年度末～） ③集客につなげる周知啓発（R3年度～） ④船舶1艘取得（R4年度）	3	1	37,700	11,880	34,710	2.7	0.0	0.0	○
			2	8,494	0	6,599	1.0	0.0	0.0	
			3	10,173	0	10,102	1.0	0.0	0.0	
			4	21,975	—	21,084	1.0	0.0	0.0	
⑨駿府城公園「桜の名所」づくり事業	①駿府城公園及び三の丸区域へ桜の植樹	3	1	566	0	566	0.5	0.0	0.0	○
			2	0	0	0	0.5	0.0	1.0	
			3	0	0	0	0.5	0.0	1.0	
			4	0	0	0	0.5	0.0	0.0	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

<p>①運用にあたり、コロナ禍からの回復を見据え、東海道二峠六宿を含めた日本遺産「駿州の旅」のブランディングを課題として捉えている。このため、本事業を第4次総合計画における5大重点政策「城下町の歴史文化を守り抜くまちの推進」に位置づけ、国内外からの誘客に向けたコンテンツの充実、プロモーションの取組を強化していくことで課題の克服を目指しつつ、今後も東海道歴史街道観光の推進に向けて引き続き取り組んでいく。</p> <p>②当該事業では朝鮮通信使を通じた釜山市との文化交流によって市民に歴史文化に触れる機会を提供するとともに、当市のフェスティバル文化を世界へ発信することができた。令和2年度・令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により事業が停滞したが、令和4年度から交流が復活した。今後は更に交流規模を拡大し、文化交流の促進と関係の強化、市のプレゼンス向上に向け、引き続き取り組んでいく。</p> <p>③～⑤静岡市歴史博物館の開館、駿府城公園における天守台の野外展示の実施など、歴史を切り口にした観光資源の充実を点で終わらせることなく、効果的に結び付けていくことでより歴史の街としての可能性は広がっていく可能性を秘めている。様々な関係機関と緊密な連携をとりながら情報を共有して戦略的な観光振興に取り組んでいくことが大切だと認識している。</p> <p>⑦駿府城公園再整備事業については、総合評価欄のとおり期待どおりの成果をあげることができた。今後も公園再整備に向け引き続き取り組んでいく。</p> <p>⑧運用にあたり、持続的な運航体制を確保するためには、さらなる乗船客数の増加を図ることが課題と捉えている。そのため、本事業を第4次総合計画における5大重点政策「城下町の歴史文化を守り抜くまちの推進」に位置づけ、運航事業者への支援やサービス・コンテンツの充実に向けた協議を継続していくことで課題の克服を目指しつつ、観光客の滞在時間を延ばし、地域経済の活性化に取り組んでいく。</p>
--

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
政策	1 静岡のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します
施策	4 お茶、しずまブランドなど食の魅力のみがきあげ
施策の目的	静岡のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進するためには、恵まれた自然環境や伝統に育まれた食の魅力を広く活用し、国内外から人を呼び込む観光事業に結び付けていく必要があります。特に観光は関連する産業のすそ野が広く、地域経済の活性化に大きな役割を果たすことから、まぐろ・お茶、しずまなどの食の魅力ブランド力ある地域資源としてみがきあげ、広く情報発信していくことにより、国内外から多くの人々が訪れ、活発な交流が行われるまちの実現を目指していきます。

評価責任者	所属	経済局 海洋文化都市推進部 海洋文化都市政策課
	氏名	課長 谷川原 賢一

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	・ イベントは開催できなかったが「まぐろのまち静岡」の市内外へのPRとしては、ポスターの掲出やチラシの配布を行うなど、予定どおり実施した。 また、新規企画のプランを検討する中で関係者との連携の強化を図るなど、一定の成果を得られた。 ・ 成果指標の実績が目標を大きく上回るとともに昨年も成果指標に掲げた本市における一世帯当たりの緑茶（リーフ）の「年間購入数量」及び「年間支出金額」、ともに日本一であったことから、施策の目的が十分に達成されていると評価することができる。
	令和2年度	S：施策の目的が十分に達成されている。	理由	・ 「まぐろのまち静岡」の推進については、webを活用する等、「清水港マグロまつり」の開催内容を変更することで、目標を大きく上回ることができた。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響から、首都圏や海外などへのプロモーション事業は実施できなかったものの、関係団体や他業種との連携により「静岡市のお茶」の普及・消費を促したことで、本市における一世帯当たりの緑茶の「年間購入数量」及び「年間支出金額」が日本一となり、成果指標の実績も目標を大きく上回ったことから、施策の目的が十分に達成されていると評価することができる。
	令和3年度	S：施策の目的が十分に達成されている。	理由	・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、イベント（しずま・オクスズまつり）等のプロモーション事業は実施できなかったが、広報誌の発行やSNSを活用した事業をメインに実施した。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響から、首都圏や海外などへのプロモーション事業が一部実施できなかったものの、関係団体や他業種と連携し、新茶シーズンでのイベント開催や宿泊施設におけるお茶の配布など、「静岡市のお茶」や「お茶のまち静岡市」のPR事業を実施することにより、本市における一世帯当たりの緑茶の「年間購入数量」及び「年間支出金額」は日本一を維持し、成果指標の実績も目標を上回ったことから、施策の目的が十分に達成されていると評価することができる。
	令和4年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	・ 「清水・マグロ博」では、新たに芸能人によるステージショーやオンラインイベント、来場者が体験できるコンテンツを増やしたことで、より多くの人にイベントに参加してもらい目標を大きく上回ることができた。 ・ 関係団体や他業種と連携し、新茶シーズンにおけるイベント開催や3年ぶりに実施した静岡市お茶まつり（世界お茶まつり2022と同時開催）などの市内プロモーションのほか、首都圏や海外へのプロモーションを通じ、「静岡市のお茶」や「お茶のまち静岡市」のPRを行ったことにより、本市における一世帯当たりの緑茶の「年間購入数量」及び「年間支出金額」は日本一を維持し、成果指標の実績も目標をほぼ達成していることから、施策の目的が達成されていると評価することができる。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度				評価	目標値の算出根拠
			1	2	3	4		
成果指標	関連施設・イベント入込客数 （「静岡おでんフェア、清水港マグロまつり等」）	613千人 (H27～29年度平均)	1	617,250	191,956	31.1%	—	現状値（H27～H29の平均）613千人から+2.8%増の630千人を計画最終年度（R4）の目標値として設定した。
			2	621,500	64,142	10.3%	—	
			3	625,750	304,826	48.7%	—	
			4	630,000	545,859	86.6%	b	
	清水マグロ博の来場者数	61千人 (H22～25年度平均)	1	65,000	—	—	a	平成30年度実績（65,000人）の維持・拡大を目標に設定している。 ※R1は台風の影響により中止 ※R2は新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した開催の為、目標値を1,500人とした。 ※R3以降の実績値は、イベントが新型コロナウイルスや天候に左右されること、会場スペースの広さが限られていることを考慮し、リアルイベント及びWeb事業への参加人数とした。
			2	1,500	40,084	374.2%	s	
			3	65,000	20,976	32.3%	b	
			4	65,000	84,019	129.3%	a	
	一世帯当たりの年間緑茶購入数量における静岡市と全国との比較	173% (H27～29平均値)	1	200%	245%	122.5%	s	「茶どころ日本一計画」がスタートしたH22から直近H29までの平均値（197%）を維持することを目標とし、設定した。
			2	200%	280%	140.0%	s	
			3	200%	231%	115.5%	s	
			4	200%	199%	99.5%	a	
	しずま・オクスズまつり来場者数	18千人 (R1)	1	18,540	18,000	97.0%	a	前年実績の3%増とする。 【外的要因】屋外で実施するイベントのため、天候に左右される。 ※R2は中止、R3の目標値はR1の実績値を基に算出した。 ※R4目標値は、設定時点の「（新型コロナウイルス）感染状況に応じたイベント開催制限等について」の区分に従い10,000人とした。
			2	—	—	—	—	
			3	18,540	—	—	—	
			4	10,000	1,000	10.0%	d	

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
「まぐろのまち静岡」の推進	①清水港マグロまつり実行委員会への補助金の交付 ②清水港マグロまつり実行委員会への支援 ③清水マグロ博の開催	1	1	6,500	0	4,455	0.8	0.0	0.0	○
			2	6,500	0	6,500	0.8		0.0	
			3	6,500	—	6,500	0.8		0.0	
			4	6,500	0	6,500	0.8		0.0	
★「お茶のまち静岡市」推進事業	「静岡市茶どころ日本一計画」に基づく情報発信やプロモーション ①JR静岡駅情報発信事業 ②「お茶のまち静岡市」ホームページ情報発信事業 ③「お茶のまち静岡市」ラッピングタクシー導入事業 ④「お茶のまち静岡市」首都圏等プロモーション事業 ⑤山のお茶プロモーションイベント「茶縁」の開催	1	1	20,536	0	12,277	2.0	0.0	0.0	○
			2	15,126	0	6,030	2.0	0.0	0.0	
			3	15,011	0	9,736	2.3	0.2	0.0	
			4	11,899	0	4,630	2.0	0.0	0.0	
★しずまえ鮮魚の普及推進	①「しずまえ新聞」の市内小中学生への配布（6月及び11月） ②「しずまえ漁業見学ツアー」の開催（10月） ③「しずまえ・オケシズまつり」の開催（9月） ④しずまえPR事業（通年）	1	1	7,330	0	7,025	1.5	0.0	0.0	○
			2	5,186	0	2,783	1.5		0.0	
			3	5,131	0	4,242	1.5		0.0	
			4	5,131	0	5,040	1.5		0.0	

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

【「まぐろのまち静岡」推進事業】：実行委員会による円滑なイベント開催・運営を支援していくとともに、周年事業の実施によりPR機会が増え、より効果的なPRが図れるよう、次年度以降も実行委員会と連携した活動を展開していく。
 【「お茶のまち静岡市」推進事業】：今後も引き続き、「お茶のまち静岡市」の認知度向上、「静岡市のお茶」の消費拡大に向け、積極的に情報発信していく。
 【しずまえ鮮魚の普及推進】：「しずまえ」の更なる認知度向上及び「しずまえ鮮魚」の需要拡大を図るため、産学官民連携事業によるPR活動を強化していく。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

評価責任者	所属	経済局 農林水産部 中山間地振興課
	氏名	課長 太田 伸二

政策	1 静岡のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します
----	-------------------------------

施策	5 オクシズの魅力を活かす交流促進
----	-------------------

施策の目的	静岡市の中山間地オクシズにおける固有の魅力を地域資源として活用し、オクシズ地域の維持と振興を図ります。また、あわせてオクシズに生きる人々と市街地をはじめとする都市住民との交流を促進し、静岡市全体の活性化を図ります。
-------	---

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	夏の猛暑や週末の天候不順、新型コロナウイルスの影響など外的要因の影響が大きく、入込客数は目標値を下回ったが、各施設の積極的な取組により、目標に対して90%近い入込客数を確保することができた。
	令和2年度	—	理由	設定している指標「関連施設入込客数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館等が行われるなどし、入込客数が減少したため適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	—	理由	設定している指標「関連施設入込客数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の休館等が行われるなどし、入込客数が減少したため適正な実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和4年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	設定している指標「関連施設入込客数」について、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者は減少しており、入込客数は目標値を下回ったが、一昨年度、昨年度よりは回復し、目標の70%強の入込客数を確保することができた。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
 ※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率 (%)	評価	目標値の算出根拠
	関連施設入込客数 (黄金の湯、安倍ごころ等)		649,000 (H27～H29の平均)	1	650,200	571,034	87.8%	
2				650,800	436,242	67.0%	d	
3				651,400	436,682	67.0%	d	
4				652,000	479,637	73.5%	c	
			1					
			2					
			3					
			4					
指標 成果 以外の の			1					
			2					
			3					
			4					

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
オクシズプロモーション事業	総合情報サイト「オクシズ」の運用及び、中山間地域の魅力情報紹介ツールの作成、広告・イベント出展等による地域情報の発信により、交流人口及び定住人口の増加を図る。	1	1	8,276	0	7,785	1.0	0.0	0.0	○
			2	8,522	0	4,085	1.0		0.0	
			3	9,316	0	6,078	1.0		0.0	
			4	60,766	0	58,089	1.0		0.0	
市営温泉浴場保全整備計画	経年劣化の進行による損壊や機能低下が発生している各温泉施設の改修を行い、利用者の安全性確保と利便性、快適性の向上を図る。 ・梅ヶ島新田温泉浴場改修	2	1	0	0	0	-	-	-	○
			2	4,400	0	4,400	3.0		0.0	
			3	17,700	0	3,010	3.0		0.0	
			4	198,000	10,208	10,208	2.0		0.0	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

(4) 今後の取組や方向性

地域振興施設については、イベントや広報活動などを指定管理者とともに実施し、コロナ禍で減少した利用者を取り戻すように務める。特に、市営温泉については、第4次総合計画の5大重点政策「オクシズの森林文化を育てるまちの推進」において入場者数の増加を目標に掲げており、令和8年度での入場者数15万人を目指す。また、インターネットによる予約やキャッシュレス決済システム等を導入することで幅広い年代の誘客を図っていく。

オクシズプロモーション事業

・総合情報サイト「オクシズ」の改修や、オクシズ公式Twitterの活用等質の高い情報発信を行うとともに、広告・イベント出展を通じて市内外に地域情報の発信を行い、中山間地振興施設の入込客数増加、指標の達成を目指す。

市営温泉浴場保全整備計画

・梅ヶ島新田温泉浴場改修について、物価高騰の影響による補正予算の編成及び入札不調による再発注等、進捗に遅延が発生したが、発注内容を見直すことで年度内までに契約することができた。引き続き、完成まで進捗管理を徹底する。また、その他の市営温泉浴場についても、計画的な改修を行う。

施策評価シート（令和元年度～4年度）

分野	1 観光・交流
----	---------

評価責任者	所属	観光交流文化局 スポーツ交流課
	氏名	課長 宮城島 清也

政策	1 静岡のブランド力ある地域資源を活用した観光を推進します
----	-------------------------------

施策	6 スポーツを通じた魅力づくりの推進
----	--------------------

施策の目的
本市スポーツ推進計画では、スポーツを「観る」、「する」、「支える」と大きく3つの視点で推進しています。そこで、市外や県外から静岡市にスポーツを「観る」、「する」ことを目的に本市を訪れたいと思う人を増やし、「支える」ことを目的にスポーツに参加する本市市民を増やすために、3つの視点に関連する全国規模の大会の開催や、静岡に根付くサッカー・野球の魅力の磨き上げを行い、本市のスポーツの魅力を日本全国・世界に向けて発信します。

(1) 総合評価

総合評価	令和元年度	A：施策の目的が達成されている。	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、プロサッカー、プロ野球などの試合が中止や無観客となるほか、静岡マラソンも中止となった。しかし、東静岡アート&スポーツ/ヒロバでは前年を大きく上回る入込客数となるなど、成果指標である「関連施設・イベント入込客数」は概ね達成することができたため、総合評価は「A」とした。
	令和2年度	—	理由	新型コロナウイルス感染症の影響により、プロサッカー、プロ野球などの試合の中止や入場者数の制限のほか、静岡マラソンや全国少年少女草サッカー大会の中止や、関連施設の休館等により、成果指標である「関連施設・イベント入込客数」の実績値を測定することができなかったため、評価することができない。
	令和3年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	新型コロナウイルス感染症対策による入場者数の制限が緩和され、プロサッカー、プロ野球などの試合の観戦者数は、昨年と比べ増加した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、静岡マラソンや全国少年少女草サッカー大会が中止となり、成果指標である「関連施設、イベント入込客数」の実績値が目標値を下回ったため、総合評価は「B」とした。
	令和4年度	B：施策の目的があまり達成されていない。	理由	プロサッカー、プロ野球などの試合の観戦者数は、昨年と比べ増加した。しかし、静岡マラソンが休止となったほか、新型コロナウイルス感染症の影響により、全国少年少女草サッカー大会が中止となり、成果指標である「関連施設、イベント入込客数」の実績値が目標値を下回ったため、総合評価は「B」とした。

※【評価基準】 S：施策の目的が十分に達成されている。A：施策の目的が達成されている。B：施策の目的があまり達成されていない。C：施策の目的が達成されていない。—：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

(2) 成果指標

成果指標	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率 (%)	評価	目標値の算出根拠
	関連施設・イベント入込客数 (日本平運動公園球技場、草薙総合運動場等)	1,394千人 (H27～29平均)	1	1,411千人	1,346千人	95.4%	a	第3次総合計画後期実施計画最終年度である令和4年度に現状値から5%増加することを目標に、各年度1%強の増加を目標値とした。
2			1,429千人	756千人	52.9%	d		
3			1,446千人	1,085千人	75.0%	c		
4			1,463千人	1,262千人	86.2%	b		
		1						
		2						
		3						
		4						
		1						
		2						
		3						
		4						
指標 成果 以外の	静岡マラソンの再開に向けて、他都市のマラソンを視察し、運営体制の構築等についての意見交換を行った。							

※【評価基準】 s：105%以上、a：95%以上105%未満、b：85%以上95%未満、c：70%以上85%未満、d：70%未満

(3) 施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
静岡マラソンの開催	①静岡マラソン開催に係る静岡マラソン実行委員会への補助金交付。 ②開催に伴う市関係機関との調整及び広報。	2	1	45,000	0	37,736	0.6	0.0	0.0	—
			2	45,000	0	436	0.6		0.0	
			3	500	10,000	240	0.6		0.0	
			4	740	0	175	0.2		0.0	
サッカー、野球によるまちづくり	①サッカーによるまちづくりとして、全国規模のサッカー大会の開催のほか、地域の賑わい創出やコミュニティ機能向上、青少年育成に関する事業などを推進。 ②野球によるまちづくりとして、市民野球熱の醸成を推進するイベント・大会の開催や情報発信等を実施。	1	1	42,732	0	34,033	3.0	1.0	0.0	○
			2	27,198	0	16,186	3.0		1.0	
			3	44,133	5,000	31,176	3.0		1.0	
			4	41,513	0	28,237	3.0		1.0	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。

※達成状況の凡例 (◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、—：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった)

(4) 今後の取組や方向性

・都市のステータスの一つになっている都市型フルマラソンとして静岡マラソンを早期再開させるために、まずは行政が主体となり復活させ、運営が軌道に乗ってきたら再び民間主導の大会として支援を行っていく。また、再開に向けて、関係機関、地元との調整を密に行っていく。

・令和4年12月のハヤテグループによる「清水庵原球場を本拠地としたNPBファームリーグ加盟の新球団創設を目指す」旨の意向表明を踏まえ、令和5年2月に、当該本拠地化を推進する基本方針を決定した。今後、スポーツを通じた魅力づくりの推進等に向け、当該本拠地化を推進していく。

・「観る」「する」「支える」の3つの視点によって清水エスパルスをはじめとするホームタウンチームを活かした取り組みを展開しスポーツ振興を進めていく。